

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

1. 初期支援(はじめのかかわり)	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
-------------------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	1人	人	人

前回の改善計画	新規利用者の情報を共有するために、今までのようなフェイスシートを各自確認するだけでなく、短時間でもミーティングする機会を作り、職員同士が確認し、支援について話し合う場を作る。
前回の改善計画に対する取組み結果	フェイスシートの確認は前回の外部評価以降、職員の中でより意識するようになった。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?		7	1		8
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	1	6			7
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	1	7			8
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?		6	1		7

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
フェイスシートや申し送りノートを活用し、情報を共有している。毎月の会議内では本人の必要とする支援の内容について話し合っている。また職員同士の情報交換について最初に関わった職員が他の職員に引継ぎなど積極的にしている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
利用開始前のミーティングが行えないことが多い。利用者との関係性が縮まるような配慮は行えているが、別居の家族とはなかなか会って話す機会が少ない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
新規利用者の方が急きよであることが多くミーティング(月に1回)前の利用だと間に合わないため、利用前の情報共有は簡潔にし、利用後に会議等で話し合う機会を持つ。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
2.「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取組みましたか?	人	5人	1人	人	人

前回の改善計画	認知症について学ぶ機会を作る。家族の希望や本人の訴える事が出来ない目標について、ケアプランや会議を通し、職員全体で共有する。
前回の改善計画に対する取組み結果	認知症の研修を全職員に対し実施した。目標については共有できるような取組みを行うことができなかった。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		2	4	1	7
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		3	3		6
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		3	3		6
④ 実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活か		4	1	1	6

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること 月に一度ミーティングを通して利用者の様子や関わった事について話し合いをしている。
--------	---

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること 利用者の最初の目標と今の目標設定が定かでなく日々関わっていくことで目標設定が変わってきていることに対応できていない。認知症のご利用者様についての目標設定を引き出す事が常にマンツーマンでの対応ではないため情報共有が難しい。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 日々の支援内容だけに目を向けるのではなく、目標について意識を持つ。漠然的に利用者を把握していても書面に記載されていること以外はなかなか関わり合いを持たないと分かりにくく、認知症のご利用者様には伝えられない方もいるのでさらなる関わりを密にしていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

3. 日常生活の支援	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
------------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	1 人	5 人	人	人	人

前回の改善計画
フェイスシートを利用開始だけでなく定期的に読み込む。新しい情報があれば連絡ノートを活用し事業所全体で共有する。職員同士が声を掛け合い、連携を取りながら全体を支援していく体制を作る。

前回の改善計画に対する取組み結果
全職員がフェイスシートを細部まで読み込むことは達成できていないが、連絡ノートについては今まで以上に活用できるようになった。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上		1	4	3	8
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていま		6	1		7
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できています		4	3	1	8
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	5			8
⑤ 共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?		7	1		8

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
バイタルの変化・体調の変化等は他の職員に情報を共有している。体調不良の方については職員同士共有し、受診や家族連絡など対応している。利用者の変化などは職員同士で話し合いその都度ノートに記載しながら情報共有に努めている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
フェイスシートの細かな部分の読み込み不足やご本人の以前の暮らしの把握が不十分。ミーティングを常に行えていないため認知症利用者が感じている気持ちについての言語化が難しい。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
本人と深く話し合いを引き出せる機会を作り、利用者の声にならない思いを月一度のミーティングで話し合う。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

4. 地域での暮らしの支援	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
---------------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか？	1人	4人	1人	人	人

前回の改善計画	本人の地域での暮らしについて、職員一人ひとりが情報を引き出すことを意識し、得た情報を共有する。
前回の改善計画に対する取組み結果	新しい情報についてはその場で職員同士共有できた。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？		5	2		7
② 本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？		5	1	1	7
③ 事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握して本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？		7	1		8
④		2	1	1	4

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること
本人のこれまでの生活リズムや生活スタイルを把握し地域でできるだけ生活が継続できるよう支援している。施設行事に参加してもらいながら家族との関係作りにも配慮している。利用者の近所の方と挨拶するなどコミュニケーションをとっている。	

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること
地域の方との関わりが出来るような支援に至っていない。民生委員については介護職という立場では関わり機会が少ない。本人と家族の意向が異なる場合に入り込むことが難しい。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
本人の地域での暮らしについて、職員一人ひとりが情報を引き出すことを意識し、得た情報を共有する。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
----------------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	1人	4人	人	人	人

前回の改善計画	利用者の希望等により、送迎時間が重なった際は、優先順位や要する時間を考慮し、全体としてのバランスを見ながら対応する。
前回の改善計画に対する取組み結果	送迎時間の調整について、優先順位を考え対応したが、場合によっては職員都合となってしまうことも見られた。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようせず、地域の資源を使って支援している		3	2		5
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が適切に提供されていますか?	1	3	1		5
③ 日々のかかわりや記録から本人の変化に気づき、ミーティング等で共有する	1	4	2		7
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができています	1	4	2		7

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること
本人の変化について、会議を待つことなくその場で話し合い、対応している。本人のその日の体調に合わせて適宜看護師や上司に連絡を取り対応している。また予定、気分に合わせて個別の送迎や対応を行えている。	

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること
利用者自身による自己主張や気持ちの激高など生じた場合の対応が難しい時がある。宿泊利用については実施困難な時がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
緊急性の高いものを優先した対応策を考える。当日の出勤職員で判断がつかない場合は必ず引継ぎを行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

6. 連携・協働	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
----------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか？	人	2人	1人	1人	人

前回の改善計画	担当者会議や病院でのムンテラなどで得た情報を会議やミーティングで伝え、全員が共有できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	得た情報の全てをその都度会議やミーティングで伝えることができていない。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	1		1	2	4
② 地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベント登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？		1	1	3	5
④		1	2	2	5

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること ケアマネは担当者会議の開催し、情報は口頭またはノートやミーティングを通して共有できている。地域の活動や小学生との交流など参加している。
--------	--

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること 介護職員はその他のサービス機関や会議に参加する機会は少ない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 担当者会議や病院でのムンテラなどで得た情報を会議やミーティングで伝え、全員が共有できるようにする。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

7. 運営	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
-------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	人	2人	4人	人	人

## 前回の改善計画

小規模多機能の事業をどう運営していくか、事業所が行う範囲について話し合う機会を設け、共通認識を持つ。

## 前回の改善計画に対する取組み結果

小規模が対応する範囲について明確は線引きができないためその都度話し合いを持ちながら確認していく必要がある。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?		6	1		7
② 利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?		7			7
③ 地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	3	1		5
④ 地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを	1	2	3		6

## できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

毎月の会議内で利用者・家族・地域から得た意見や苦情を検討しながら小規模のあり方について話し合いを設けている。

## できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

事業所のあり方について、思うところはあっても職員全員が、積極的な発言ができていない。地域の方からの意見などを直接受ける機会が少ない。

## 次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

会議内で全職員が活発に意見を出し合える雰囲気を作る。事業所と家族が行う範囲についてその都度検討し続ける。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

8. 質を向上するための取組み	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
-----------------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	1人	1人	1人	1人	人

前回の改善計画	外部研修を活用し、それぞれの職員に合った研修に参加しスキルアップにつなげる。
前回の改善計画に対する取組み結果	体制上、外部研修に参加する機会を多く作ることができなかった。

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	2	2	1	1	6
② 資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	3	1	1	6
③ 地域連絡会に参加していますか			1	3	4
④ リスクマネジメントに取り組んでいますか		1	2	1	4

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること 市内地域密着型サービス連絡会に所属。事業所同士の見学会を実施している。 職場内外の研修に参加している。
--------	---

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること スキルアップできる研修に参加しているが、「資格取得」に向けた研修には参加できていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)	外部研修を活用し、それぞれの職員に合った研修に参加しスキルアップにつなげる。
------------------------	--



事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成29年2月27日
------------------	-----	------------

9. 人権・プライバシー	メンバー	濱田、平尾、島崎、木内、尾上、勝原、小寺、林、中村
--------------	------	---------------------------

## ◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	人	3人	1人	人	人

前回の改善計画	個人情報の取り扱いについて、事業所全体で学ぶ機会を設け、適正な個人情報の管理を行う。
---------	--

前回の改善計画に対する取組み結果	事業所全体で学ぶ機会を作ることはできなかったが、職員が各自個人情報の取り扱いに注意することができた。
------------------	--

## ◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 身体拘束をしていない	6	2			8
② 虐待は行われていない	8				8
③ プライバシーが守られている	3	5			8
④ 必要な方に成年後見制度を活用している		1	2	1	4
⑤ 適正な個人情報の管理ができている	3	3			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
身体拘束・虐待は行っていない。必要時以外は個人情報を他者に漏らしていない。言葉や行動の拘束にも気を付けている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
成年後見制度について、全体的に制度自体の認識不足がある。現在成年後見制度を利用を進めている方がいるが、全職員が把握はできない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
成年後見人制度について、利用することで支援の内容がどう変わるか、会議内で共通理解ができる場を設ける。	

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 ふじみ野福祉会	代表者	吉原 孝好	法人・事業所の 特徴	法人として市内2箇所目の施設として開設し、同建物内には地域密着型特別養護老人ホーム・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所を併設している。法人理念である「利用者・家族・職員の3つの笑顔を大切に地域に根差した施設作り」・「利用者の尊厳を守り継続した施設作り 生存から生活へ」のもと、利用者が安心して地域で生活できるよう、個々の利用者に合わせて、職員が柔軟な対応を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護むさしの	管理者	細川 信吾		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	1人	人	人	人	2人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	それぞれの項目ごとの改善計画を実施するとともに、通常行っている業務内容が利用者にとってどんな意味合いを持つのか、職員自身が理解できるよう会議内で話し合っていく。	今年度は計画立案後、改善内容について一度職員会議で説明を行った。	自己評価の内容からもわかるように現場の職員からすると機会の少ないこと(民生委員との関わりや担当者会議の参加)も評価の内容に入っている。主に関わる機会のあるケアマネからはその都度必要な内容を伝えている。	改善計画について、定期的に会議内で再確認する場を設け、実行できるようにしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	経年劣化による環境の悪化がないよう、今の状態を維持していく。臭いの部分に関しても清潔保持と汚物の適切な処理を継続していく。	事業所のしつらえについては評価にあるように悪化させることなく維持できた。	開設から4年を経過し、こからは故障や汚れも目立ってくるのが予想される。今の段階では目立った不備はないので、この状態をいかに維持していくかが重要。	経年劣化による環境の悪化がないよう、今の状態を維持していく。臭いの部分に関しても清潔保持と汚物の適切な処理を継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事やイベントに参加した際に行っている事業のPRを行うなど、小規模多機能としての周知活動を行い、事業の特性や利用したいと思えるサービス内容を広めていく。	今年度は水谷文化祭の模擬店出店時に事業所のPRを実施した	。地域包括が併設されているので地域で支援の必要な方はまず包括に相談が入る流れになっている。小規模の利用料金はその他のサービスに比べ減額対象ではないので利用できる方もおのずと絞られてしまっている。	地域の行事やイベントに参加した際に行っている事業のPRを行うなど、小規模多機能としての周知活動を行い、事業の特性や利用したいと思えるサービス内容を広めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ちょっとした時間を利用し、散歩など外出する機会を増やしていく。それには職員全体の外出への意識も変えていく必要があり、職員会議内でも話し合いの場を作る。利用者以外の方のかかわりについては、送迎や訪問の移動や利用者家族から情報を得た際は担当の地域包括につなげる。	今年度中は改善計画にある散歩については思うように実施できなかった。	利用者以外の心配な方に対してのかかわりは現実問題として、そうあることではなく、それを事業所職員に求めることはかなり難しい。今年度中は年間予定以外で事前に企画していたわけではないが、スーパーへちょっとした買い物を実施した。	今年度実施したように、近くのスーパーへ買い物に行くという外出も実施していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	小規模多機能の事業の特性上、独居の方や身寄りのない方の利用も多くあり、そんな方の地域での暮らし方について、運営推進会議内で事例として検討する機会を設けていく。	運営推進会議内で小規模を利用する方について、在宅生活を継続する上で必要な小規模としての支援、家族の支援について検討を行った。	在宅で生活するには地域や役所の協力が不可欠であり、一人で行動できる方は警察や公共機関に自ら出向くこともある。また地域の方の認知症に対する理解も近隣の関わりの中で重要。	これまで小規模が支援してきた方の生活の状況や支援の内容について会議内で説明や話し合う場を作る。それにより、運営推進会議に参加するメンバーに在宅生活を送る方の実状の理解を図る。
F. 事業所の防災・災害対策	総括表をまとめる段階で防災計画の説明や備蓄品の目視を実施した。今後は避難訓練等の案内も実施していく。	備蓄品の目視を実施した。避難訓練には1名参加。	地域防災訓練は第1町会への案内は出されていたが、その他の町会には話がなかったが、地域の方からは災害時の問い合わせが多いので参加できる町会を広げても良いのではないかと。	来年度の地域防災訓練はこれまで対象としてきた地域にこだわらず案内を出し参加を募る。訓練に合わせて災害時の福祉避難所の役割も施設側と地域住民の間で共通認識を持つ機会を作る。